



在宅被災世帯 状況報告会 (平成 24 年 6 月報告)

石巻医療圏 健康・生活復興協議会

状況報告会の趣旨

石巻医療圏 健康・生活復興協議会（以後、当協議会）は、宮城県石巻市・同牡鹿郡女川町（以後、石巻医療圏）の在宅被災者を対象に、平成23年10月より全戸訪問による健康・生活支援活動を行なっている。

平成24年度は石巻市の委託事業として、震災後2年目に入り需要が変化した在宅被災世帯に対して、戸別訪問聞き取り後の健康支援活動を実施している。本報告会は、月次で開催し、当協議会が把握した住民の状況を石巻市、宮城県を始めとして石巻市の復興に務める団体等に報告し、石巻市の復興への一助とすることを目的とする。

目次

はじめに

石巻医療圏 健康・生活復興協議会概要

I 戸別訪問聞き取り活動報告

1. 戸別訪問聞き取り進捗報告
2. 戸別訪問聞き取り結果 統計グラフ
3. 石巻市民からの声

II 専門職サポート活動報告

1. 専門職サポートの概要
2. 第2期サポート状況
参考：第1期サポート状況
3. 専門職サポート詳細

III 生活サポート事業報告

1. 住環境サポート活動報告

IV リリース情報

石巻医療圏 健康・生活復興協議会概要

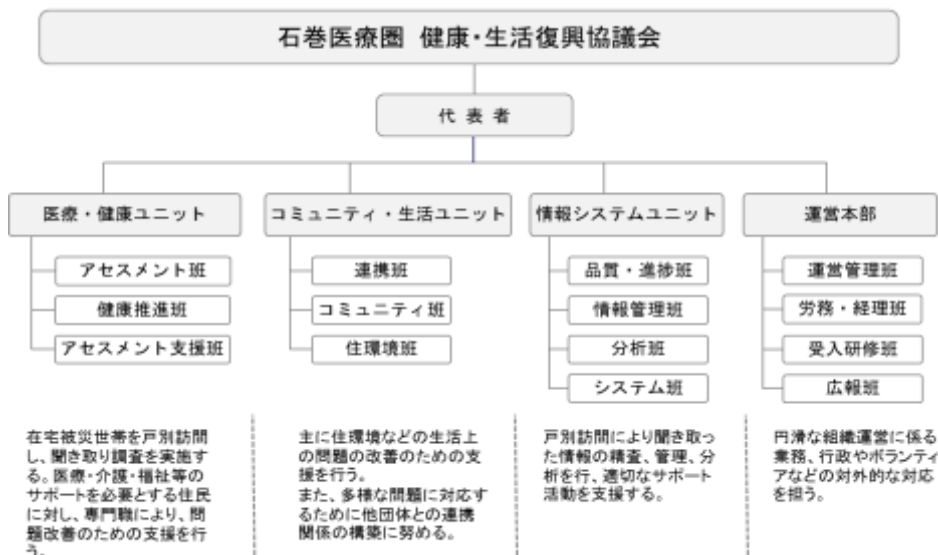
1. 事業概要

当協議会は、石巻市・女川町に所在する在宅被災世帯への支援団体です。平成 23 年 10 月に活動を開始、平成 24 年 3 月末までに 8,604 世帯を戸別訪問し、4,023 世帯の聞き取り調査を実施、うち約 1/4 の世帯を支援世帯とし、医療や介護の相談、自立生活支援を続けています。

平成 24 年度は石巻市の委託事業として、主に健康面での支援を実施することとなりました。現在、中里地区に拠点を設置し、住吉・湊・渡波・大街道・石巻門脇・山下・牡鹿・北上・河北の各地区で活動しています。私たちは、石巻市を始めとした地域の各行政機関や事業所の後方支援として、その役割を一部担いながら、震災後の健康不安や孤立をなくしていくこと、そして住民の方々が一日でも早く地域で安心して過ごせるように努めます。

団体名	石巻医療圏 健康・生活復興協議会
英語名	Health and Life Revival Council in Ishinomaki district (RCI)
設立	平成 23 年 11 月（活動開始 平成 23 年 10 月）
拠点住所	宮城県石巻市中里三丁目 12 在宅被災世帯サポートセンターA 棟
責任者	代表 武藤 真祐（医療法人社団鉄祐会 祐ホームクリニック石巻 院長）
コア団体	医療法人社団 鉄祐会 祐ホームクリニック石巻 公益社団法人 日本医療社会福祉協会 東日本対策本部 一般社団法人 高齢先進国モデル構想会議
スタッフ数	41 名（平成 24 年 7 月 1 日時点）
運営団体	一般社団法人 高齢先進国モデル構想会議

2. 組織図



3. 事業計画図

当協議会は、宮城県石巻市・同牡鹿郡女川町の在宅被災者を対象に、平成23年10月より全戸訪問による健康・生活支援活動を行なっています。

平成24年度では、石巻市の戸別訪問後の健康支援活動について、石巻市委託事業として、事業を実施しています。

■ 石巻医療圏 健康・生活復興協議会 事業計画

	第一期 平成23年10月 ～平成24年3月	第二期 平成24年4月 ～平成24年9月	第三期 平成24年10月 ～平成25年3月
石巻市	<ul style="list-style-type: none"> ■ 個別訪問聞き取り 3669件 ■ 専門職による区分判定 ■ 専門職サポート 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 訪問聞き取り 4000件(想定) ■ 専門職による区分判定 ■ 専門職サポート 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 訪問聞き取り 1000件(想定) ■ 専門職による区分判定 ■ 専門職サポート
女川町	<ul style="list-style-type: none"> ■ 個別訪問聞き取り 354件 ■ 専門職による区分判定 ■ 専門職サポート 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 専門職サポート(生活面) 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 専門職サポート(生活面)

平成24年6月19日時点。その他事業については、今後も検討していきます。

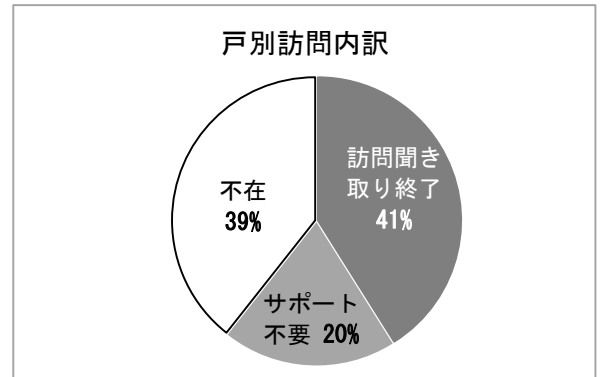
I 戸別訪問聞き取り活動報告

1. 実績報告

対象：2012年4月1日～2012年6月30日に行った戸別訪問聞き取りの実績を報告します。

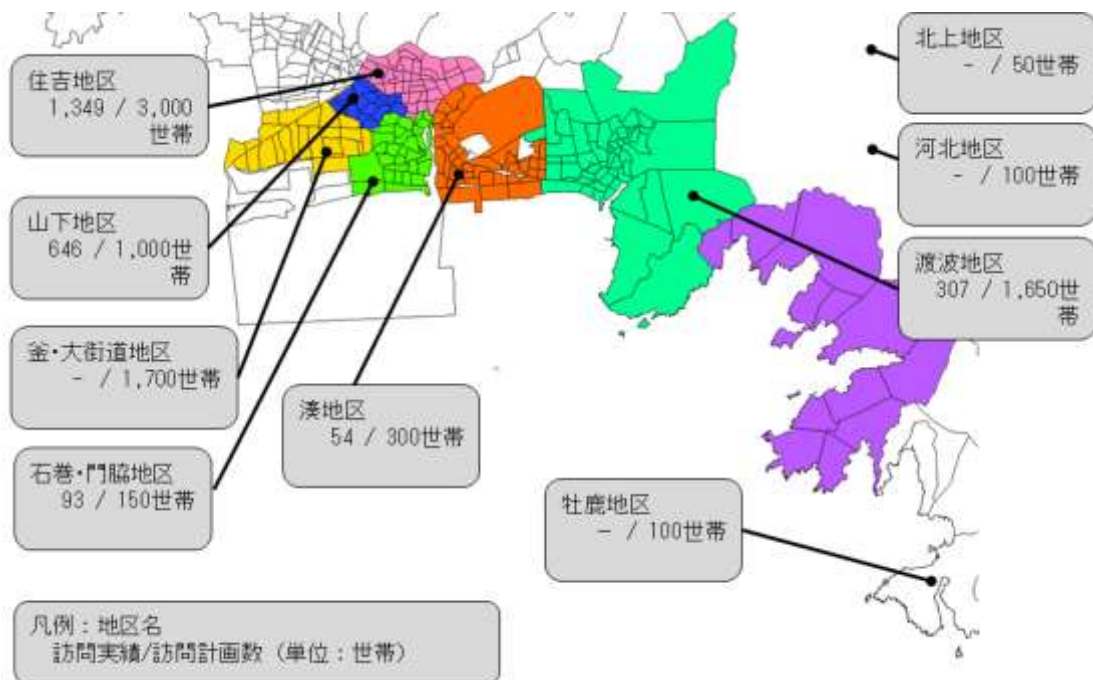
[全体]

訪問件数 2,457世帯
 在宅 1,490世帯
 戸別訪問聞き取り終了 1,009世帯
 サポート不要 481世帯
 不在 967世帯



[地域別]

地域	全体	住吉		山下		渡波		湊		石巻門脇		その他		
		件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	
在宅	聞き取り終了	1,009	723	54%	122	19%	89	29%	20	37%	47	51%	8	100%
	サポート不要	481	227	17%	150	23%	78	25%	9	17%	17	18%	0	0%
不在	967	399	30%	374	58%	140	46%	25	46%	29	31%	0	0%	
訪問合計	2,457	1,349	100%	646	100%	307	100%	54	100%	93	100%	8	100%	
割合	100%	55%		26%		12%		2%		4%		1%未満		



2. 戸別訪問聞き取り結果

聞き取りの結果の全容は後述「参考資料」をご参照ください。

今回は、その中でも最も喫緊の課題の一つである「生きる希望がありますか」に対して「いいえ」と回答した世帯について、詳細を報告します。

データ対象：平成24年4月1日～平成24年6月30日訪問分

訪問地区：住吉、山下、石巻・門脇、湊、渡波、牡鹿の一部

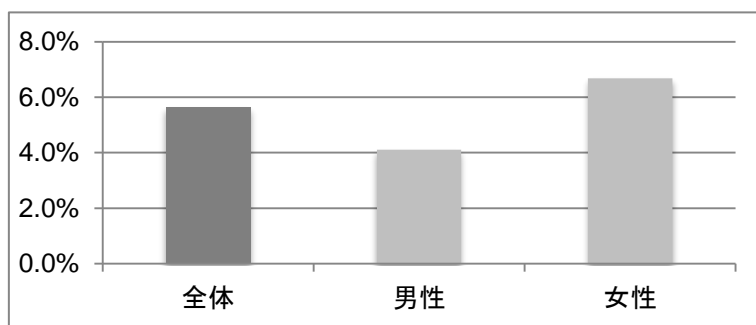
「生きる希望がないと思いますか」の問いに対して「思う」と答えた方は5.6%、84名でした。

	項目	値	割合
0	有効回答	1,491	100.0%
1	おもう	84	5.6%
2	ない・無回答	1,407	94.4%
3	N/A		-

「思う」と回答した84名は、「性別」「年代」「頼れる人の有無」に関して、以下傾向が見られました

1. 性別

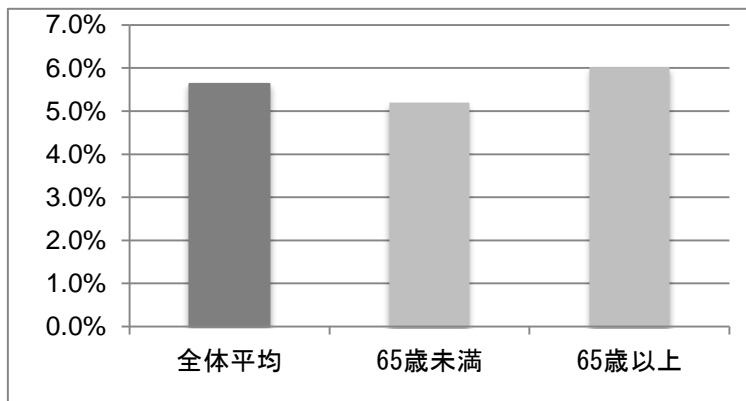
	割合	希望なし	全体
全体	5.6%	84	1491
男性	4.1%	24	584
女性	6.7%	59	883



2.

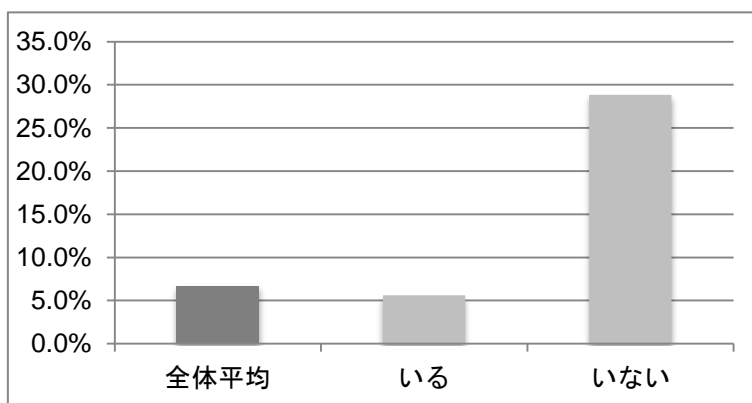
2. 年代別比較

	割合	希望なし	全体
全体平均	5.6%	84	1491
65歳未満	5.2%	36	692
65歳以上	6.0%	48	797



3. 頼れる人の有無

	割合	希望なし	全体
全体平均	6.7%	74	1104
いる	5.6%	59	1052
いない	28.8%	15	52
N/A	-	10	-



3. 住民からのアイデア

戸別訪問聞き取りや各サポートの過程で、石巻市の住民からいただいた復興へのアイデアを、住民の方の声をそのままに纏めました。

コミュニティ

- 皆で小物を作る会等があったらよい。
- 川沿いに市場等、活気のある場所を作れば、全体的に活気が戻ってくると思う。
- 今までの様に、公園を子供達が遊べる場にして欲しい
- 子どもの遊び場が欲しい。

情報伝達

- 物資のやり取りや伝えたい情報などをどこへ言えばいいのか分からないので、連絡先一覧を作って配布をしてみてもどうか。
- ボランティア、市によるイベント事を、もっと広く市民に開示していく。
- 石巻市は障害に関する情報が少ないため、障害に関する情報を多く発信してもらいたい(※)。
- 有線を希望者に設置するのは協議会でも取り組んでよいアイデアではないか。

医療・介護

- 左半身の筋力が弱く、身体障害者手帳を持っている。自由に動きたいという希望あり。
- 病院の充実。
- 石巻市は障害に関する情報が少ないため、障害に関する情報を多く発信してもらいたい(※)。

その他

- 費用が発生しないよう、市民一人一人が石などを運ぶなどして参加し、記念碑を作っただらいいと思う。
- 半分壊れている様な家を処理してほしい。子供が通る道にあると危険を感じる。

(※) は重複意見

Ⅱ 専門職サポート活動報告

1. 健康サポート事業概要

津波の浸水被害を受けたエリアの住宅を戸別訪問し、健康・生活について聞き取ります。聞き取りの内容は一定の基準に照らして、サポート要否とどのようなサポートが必要かを判断します。サポートが必要な住民に対しては、必要な支援につなげるべく、地域の保健師や包括支援センターの後方支援として活動しています。



2. 2期判定結果

2012年4月1日～2012年6月30日に行った戸別訪問聞き取りの結果、23%の世帯に専門職サポートが求められていました。

2- (1) サポート内訳と状況[世帯]

聞き取り終了世帯	1,009世帯	割合	完了	継続	未着手
サポート必要世帯	229世帯	100%	66	56	168
医療	18世帯	8%	6	3	9
介護	51世帯	22%	16	18	17
自立	30世帯	13%	6	14	0
こころ【軽】	74世帯	32%	16	15	43
こころ【重】	12世帯	5%	1	3	8
見守り	63世帯	28%	0	0	63
住環境	52世帯	23%	21	3	28

※1：上記一覧は1世帯に対し、複数のサポートが必要な事例も含む。

※2：各サポートの割合はサポートが必要な世帯229世帯に対する割合。

2- (2) [参考]第1期のサポート状況（2012年6月30日時点）

第1期（2011年10月～2012年3月）の戸別訪問聞き取りにより、サポートが必要とされた方へのサポート状況は次の通りです。特に自立サポートにあらわれているように、問題の解決には長期間かかるものも多いことがわかります。

サポート項目	世帯数	割合	完了	継続	未着手
サポート必要数	1,015世帯	100%	597	305	93
医療	66世帯	7%	42	18	6
介護	185世帯	18%	76	75	14
自立	600世帯	59%	430	165	5
こころのケア	28世帯	3%	8	20	0
見守り・再調査	136世帯	13%	41	27	68

単位：すべて世帯

3. 各専門職サポートの詳細

[医療・健康サポート]

(1) 医療サポート

看護師の有資格者が、地域の保健師の後方支援として、通院や服薬が中断している人、身体の不調を訴える人へ訪問し対面にて身体状況を確認します。さらにその要因は何かをゆっくり話を聞きながら確認し、解決の方向性を共に考えていきます。

① 受診支援

医療を必要としながらも何らかの要因で受診できていない場合に対応します。

医療を必要としながらも医療拒否がある人に対しては、健康相談等で関係性を構築しながら医療の受け入れを促し、受診を薦めます。

アクセスの問題で受診が妨げられている人に対しては、移動手段の確保や地域保健師と相談して訪問医療に繋げるなど、本人や家族とともに解決策を考えます。

② ストレスや過労状態の緩和支援

震災後のストレスを原因としての不調が多く見られます。その場合には、繰り返し訪問し傾聴によるケアを含めて体調管理をします。

震災後の生活再建による過労状態が多く見られます。その場合には、マッサージや体操、散歩に連れ出すなど、身体を動かしながら「がんばりすぎ」の状態から自らの身体を省みるよう促します。

③ 健康診断の受診促進

震災後、大きな負担が掛かっていることから、健康診断を受けることの重要性を伝え、受診を薦めます。

(2) 介護サポート

健康と生活について不安を感じている、また今後介護保険のサービスが必要となるかもしれない高齢者が、安心して生活を送ることができるように、協議会の保健師、看護師、ケアマネジャーの有資格者が、地域の包括支援センターの後方支援として、健康と生活にかかわるサポートを行います。

① 高齢者の医療相談、健康管理

健康上の問題がある高齢者や、服薬を中断している高齢者に対して、血圧や血糖値の管理や生活アドバイスを行いながら、適切な医療機関への受診を促す。そのほか、認知症、人工肛門や自己導尿等疾病にかかわる相談相手になります。

② 高齢者支援制度説明、申請手続き支援

介護保険申請支援を中心に医療費の負担免除や高齢者の配食サービスなどの行政手続きの申請代行や身体障害者手帳利用の説明など、生活を支える公的サービスの適切な活用を促します。

③ 住環境相談

窓が割れている、畳や床が汚れている、浴室が機能していない等震災の被害が放置されている、また居室内の衛生状態を保つには困難など高齢者のみの住居にかかわる問題がある場合、当協議会の住環境班と連携し改善を図ります。

④ 移動支援相談

高齢者またその家族が通院や日常生活上の移動に困難を抱えている場合、他の支援団体と連携し、移動支援サービスを受けられるように手配します。

⑤ 見守り

健康に不安がある高齢者、近い将来介護保険が必要となる可能性がある高齢者に対して2-3ヶ月に1度の間隔で見守りを行います。

(3) 自立支援サポート

自立支援サポートは、資格・経験を持ったソーシャルワーカーが、社会福祉の立場から、被災された方・そのご家族の自立にむけた、経済的・心理的・社会的問題の解決を図ります。そのための、行政などの諸機関と関係者間の関係構築、自立生活の再建と継続支援、地域コミュニティの再生活動を行ないます。

① 心身の問題に関わる通院・治療継続に向けた支援

② 経済的課題解決を中心とした生活支援

③ 家族関係の心配事・悩みについての問題解決

④ 住民の方の社会参加の実現に向けた寄り添い支援

(4) 心のケアサポート

心のケアサポートは、主に臨床心理士、認定カウンセラー、看護師等の専門職が在宅被災世帯の訪問聞き取り後、「心のケアが必要」と判定された方に対して、専門職による訪問カウンセリング・連携団体に引き継ぎを行うための事前スクリーニングを行います。

① 訪問による傾聴・カウンセリング・課題把握

心のケアが必要と判断された方を戸宅訪問し、心のケアの課題を把握します。軽度であれば傾聴、見守りを実施、中程度～重度のケアが必要な方に対しては、カウンセラーによるカウンセリング、連携団体に引き継ぐための課題把握を行います。

② 傾聴・見守り

軽度のケアが必要な場合には、臨床心理士により傾聴・見守りを行います。

③ 外部団体への情報連携・フォロー引き継ぎ

重度のケアが必要・長期にわたるフォローが必要な場合には、外部専門団体（からころステーション）による対応へと繋げます。そのための整理や、各種調整を行います。

④ こころのケアイベント開催

コミュニティ支援型 こころのケア（笑いの集会）を月5回～7回行っています。6月は、集団セラピーの手法を専門団体からレクチャーを受け、住民が住民を支えることに繋がるよう住民参加型にシフトを始めました

⑤ 支援者支援

当協議会の職員も含め、支援活動の中で被災地における精神的なストレスを受ける可能性があります。カウンセリングケア・予防ケアを行うといった、「支援者支援」を実施しています。

(5) 見守りサポート

健康に問題がないが、地域で孤立している、もしくは孤立が懸念される高齢者に対して巡回し、安否確認するとともに、話し相手、相談相手として寄り添い、傾聴を行います。サポートは、主に住民支援専門員や外部連携団体（フェアトレード東北）が行います。

[生活・コミュニティサポート]

(1) 住環境サポート

住んでいる人を危険に晒し、人の健康を蝕んでいる状況を少しでも改善できるようサポートを行います。

① 制度の説明と代理申請

り災証明、義援金、応急修理制度、加算支援金や災害ゴミ撤去の説明と代理申請を行います。

② 補修相談・提案

住宅の補修、住宅補修とその予算のアドバイスをを行います。

③ 補修

業者、ボランティア、解体業者による補修につながります。

④ 行政との話合いにかかわる相談

税金、敷地境界線・杭、崖崩れ、生活保護を絡めた補修等行政との話合いが必要な事例について相談を行います。

(2) 移動集会バスによるコミュニティ支援

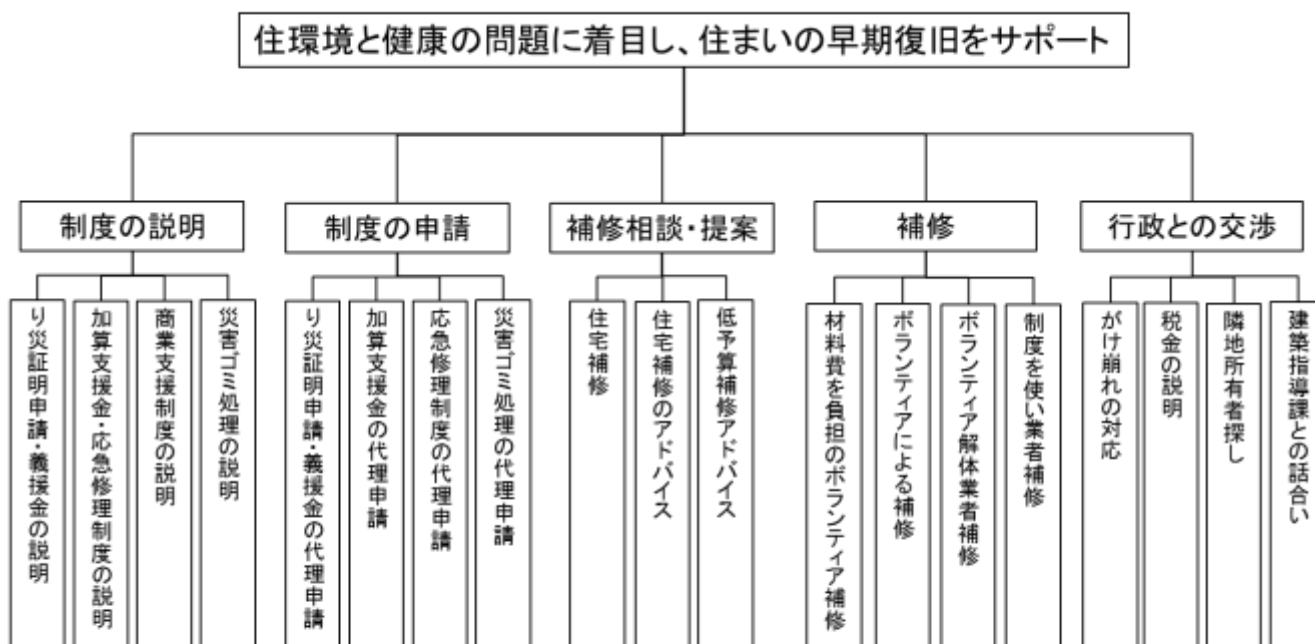
コミュニティ再開が遅れている地域を調査し、移動集会バスによるコミュニティ支援を10ヶ所（石巻渡波3丁目、大街道東1、大街道東2、門脇捨喰、大街道南、住吉町、八幡町、狐崎、不動町、雄勝呉坪）で開催しています。

Ⅲ 在宅被災世帯の住環境のフォロー状況

はじめに

- 昨年の10月以降、住生活と健康の問題に着目し、住まいの早期復旧をサポートしてきました。
- 私たちは、住宅に被害を受けた住民がどのような問題を抱えているか、今後はどのような対策が考えられるかについて、報告いたします。
- 今後の石巻医療圏の住民の方々の方々の生活復興に少しでもお役に立てましたら、本望です。

コミュニティ・生活ユニット 住環境班の活動内容



住環境支援が必要な背景

2012年1月時点

[現状]

- 震災前の日本全体の建築棟数81万棟にしめる東北地方の割合は4万棟（5%）。
それに対し、震災による損害住宅は83万棟（震災前東北地方の20年分の量）
- 石巻市の半壊・全壊戸数 24,000棟



- 地元業者がパンク。
1業者20~70軒の注文残がある。
- 工事着工は、最短でも2012年夏から。
- 見積もり取るだけでは1ヶ月以上の待ちで、補助金申請に間に合わない



住宅修繕を検討中の世帯は約4割（598世帯）を占める

N=在宅避難世帯1,515世帯

- 自己補修で我慢している世帯：220世帯（15%）
- 修繕が済んだ世帯：212世帯（14%）



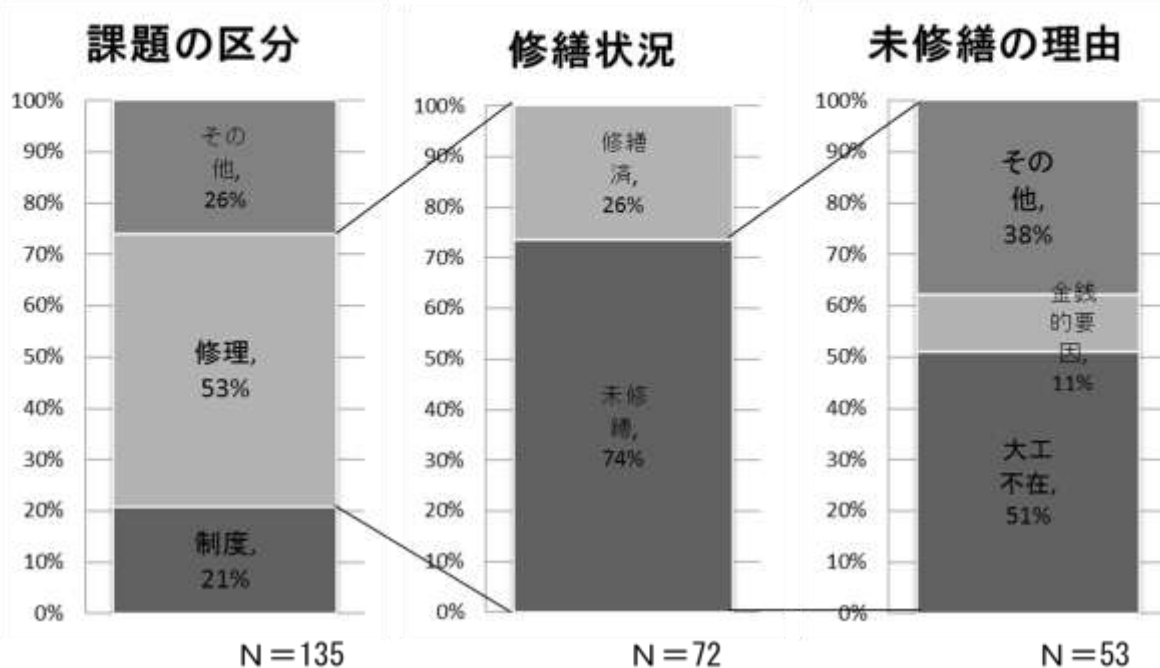
全国から駆け付けた
応急修理チーム



多忙により、工事が
進まないケースも多発

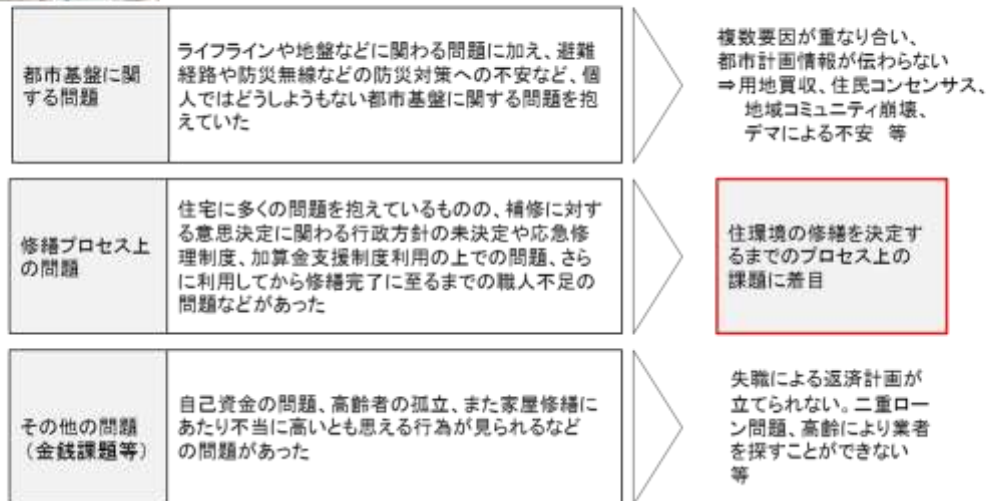
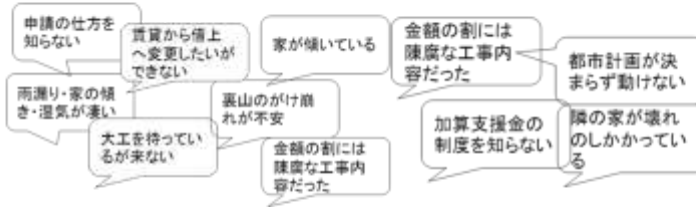
アセスメントから見える住宅修理状況

第1期アセスメントで「住環境フォロー」をした135件の内、修理に関する課題では、修理そのものが53%。その内74%は未修繕である。未修繕の理由は大工不足（51%）、金銭的要因（11%）となっている。



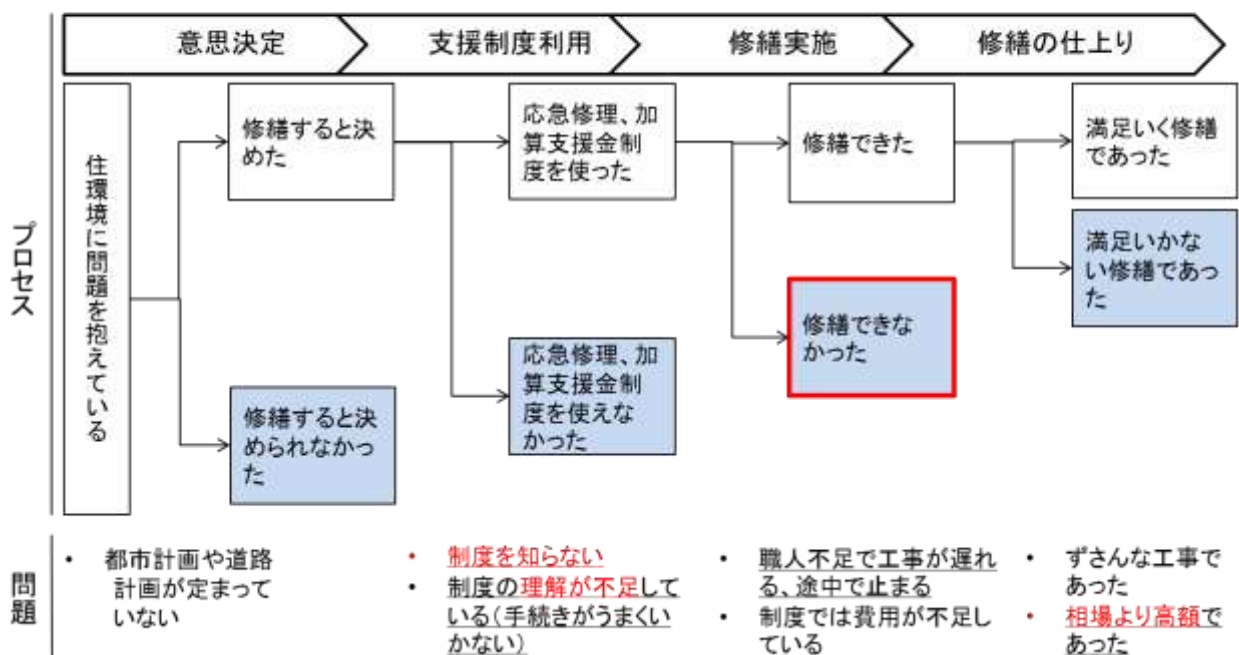
住環境問題の内訳

在宅被災世帯の多くが、住環境に関する問題を抱えていた。それらを大別すると「都市基盤に係る問題」と「個人の住環境の修繕に至るプロセス上の問題」と「その他」に分けられた。



住環境の修繕に至るプロセス

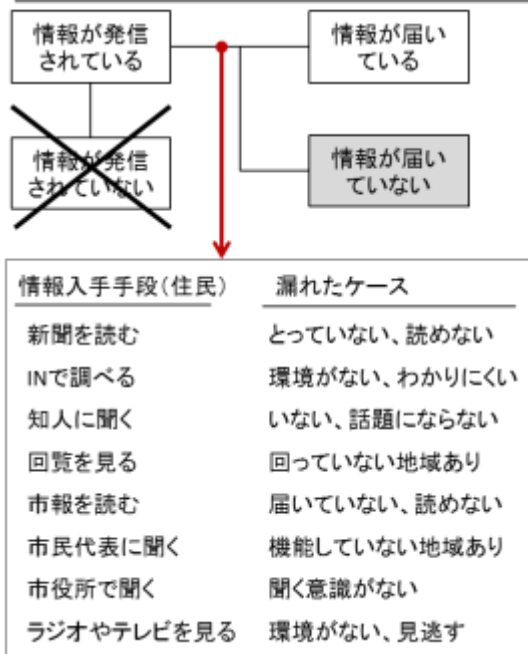
住環境を修繕するための「意思決定」「支援制度利用」「修繕実施」「仕上がり」という工程で複数の要因が重なりあい、修繕が進まないケースが存在する。2012年1月時点では4割、2012年7月時点でも2割が修繕完了していない。



情報の伝達方法について 「支援制度を知らない」対策

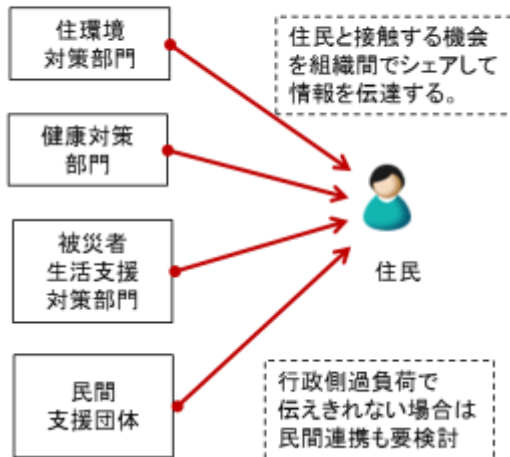
情報は発信されていたが、情報を受け取る側も混乱しており、発信された情報が行き渡る状況ではなかった。

制度を知らない要因



解決策の提案

それぞれの対策部門がそれぞれのテーマで情報を提供。住環境は、生活の基盤であり、健康にも影響があるため、組織横断で情報を伝える機会の創出をする。



情報の伝達方法について 「制度を理解していない」対策

応急修理制度、加算支援金制度には条件や選択の幅があり多くの人々が相談を必要としたが、家の状態や今後の住宅再建方針を把握していない相談窓口では、適切なアドバイスが出来なかったケースがあった。結果、高齢者が取り残されるケースが発生している。

➤ 制度がわかりにくかったのか？

類似制度が存在し、適用条件などで制限あり誤解を受けやすかった。

※当時、誤解やデマも発生。
情報弱者は、相談すること自体を諦めている人も存在した。

例)

- ・ 加算支援金:住宅の再建方法によって金額が変わる
- ・ 仮設は使えない。借り上げ仮設は使える 等

➤ 公的な説明ができなかったのか？

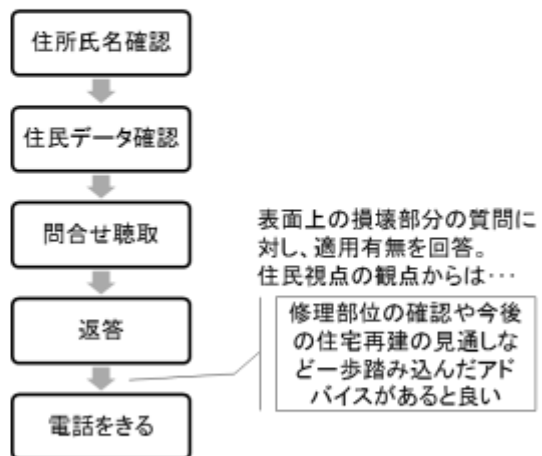
住民は眼に見えるもので相談してしまう傾向あり。それに対して、制度の範囲内か外かを説明するだけでなく、一步踏み込んだ聞き取りが出来たほうが住民視点である。

例)

- ・ 「天井やふすまを治したいのですが」
- ・ 「建具を治したいのですが」
- ・ ⇒対象外です。

➤ 提言

- ・ 市役所相談窓口の対応の流れ



[望ましい施策案]

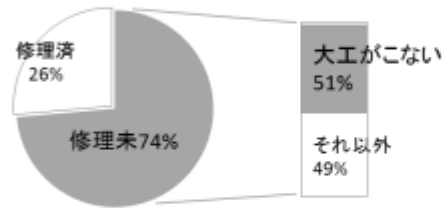
適切な活用に向けたチェックシート等を窓口で導入し、誤った利用を防ぐ

「職人不足」が引き起こした事象

急激な職人不足に対し、県外から業者を誘致したが、関係ある地元の事業者に依頼が集中した。県外事業者は地元事業者の後方支援として、地元の処理能力を拡げることが望ましい。

➤ 需要に対して職人が不足していたのか？

協議会が把握した72件の修繕希望者の状況

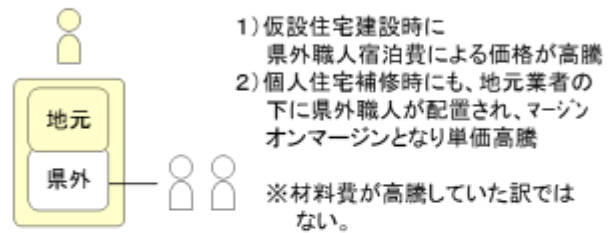


地元の業者だけでは対応できない量の作業が発生していた

➤ 県外事業者では対応できなかったのか？

技術的には問題ないが、メンテナンス懸念より地元の業者に依頼が集中した。

➤ 価格高騰を起こしていた要因

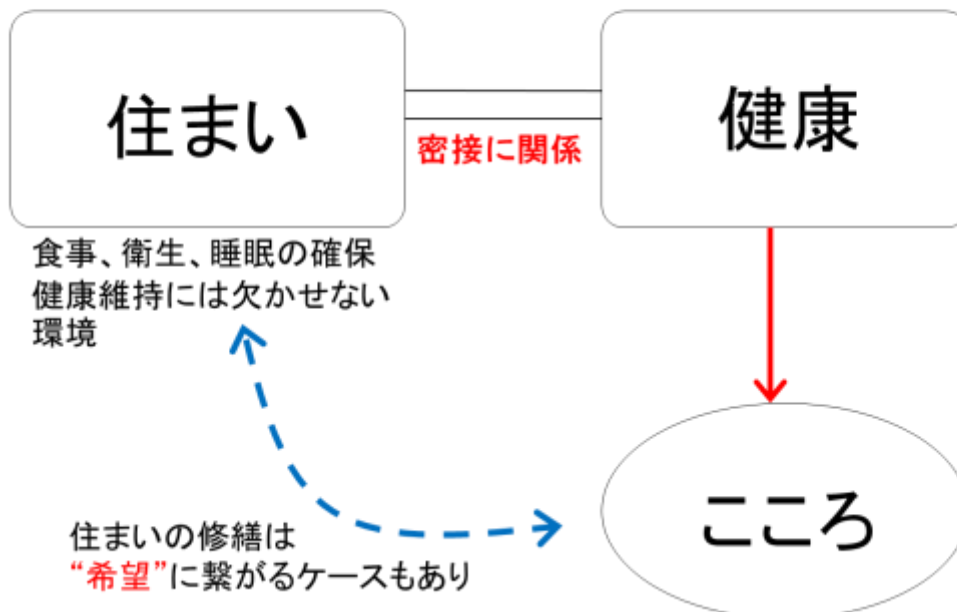


提言：

- ・広範囲に住環境が破壊されるような災害時には、仮設住宅の措置に加え、**住環境を補修する対策も同時に必要である。**
- ⇒ 県外職人を迎え入れる住環境や体制づくり推進。できていないと結局、被災者に負担が転嫁される。

住まいと健康について

住まいと健康は、密接な関係があり、住民視点では両方のケアが必要。



IV リリース情報

当協議会の活動について、以下のように取り上げていただいています。

■ 平成 24 年 6 月におけるリリース状況

※平成 24 年 6 月 19 日～平成 24 年 7 月 9 日 24:00 時点での主なメディア掲載情報です。

6 月 19 日	共同通信社 河北新報、神戸新聞ほか各 地方紙 18 社 時事通信社、47NEWS、 YAHOO ニュースほかインタ ーネットニュース 5 社	「石巻医療圏 健康・生活復興協議会」(RCI)の健康調査 の中間報告について掲載されました。
6 月 20 日	日本経済新聞 東日本放送 「スーパーJチャンネルみ やぎ」	「石巻医療圏 健康・生活復興協議会」(RCI)の健康調査 の中間報告について掲載されました。 「石巻医療圏 健康・生活復興協議会」(RCI)の健康調査 の中間報告について放送。
6 月 21 日	石巻日日新聞	石巻医療圏 健康・生活復興協議会」(RCI)の取組みにつ いて掲載されました。 タイトル：在宅被災で心の問題深刻 個別訪問調査結果 カウンセラー不足が課題
6 月 24 日	石巻かほく	「石巻医療圏 健康・生活復興協議会」(RCI)の取組みに ついて掲載されました。 タイトル：在宅被災者 14%が「ケア必要」 1300 世帯に調査
7 月 2 日	日本経済新聞	「石巻医療圏 健康・生活復興協議会」(RCI)の取組みに ついて掲載されました。 タイトル：被災者支援 目配り広く 官民、見守りや交流の場



石巻医療圏
健康・生活
復興協議会

組織概要（沿革）

■平成23年（2011年）

3月11日

東日本大震災発生

4月～9月

避難所・在宅避難世帯向け支援活動をNPOや在宅医療機関がそれぞれの分野で活動を実施

10月

在宅被災世帯の実態を把握すべく、自宅訪問形式の健康・生活アセスメントを開始。

石巻市健康対策部門との相談を開始。

11月

石巻医療圏 健康・生活復興協議会（RCI）を発足

アセスメント活動の結果をもとに、在宅避難世帯のサポート活動を本格的に開始

活動拠点を石巻市内に設置

12月

女川町 保健センターとも連携して女川町のアセスメント調査を実施

■平成24年（2012年）

1月

活動拠点を石巻市在宅避難世帯サポートセンターに移設

2月

在宅避難世帯への健康・生活面でのアセスメント調査が3,000世帯を超える

3月

活動で得られた4,000世帯分の分析データを元に、新たな支援モデルを設計する

5月

第二回の調査活動を開始。現在に至る



石巻医療圏
健康・生活
復興協議会

組織概要（団体概要）

団体名	石巻医療圏 健康・生活復興協議会
英語名	Health and Life Revival Council in Ishinomaki district
略称	R C I
創業年	平成23年11月（活動開始 平成23年10月）
住所	宮城県石巻市中里三丁目12 在宅被災世帯サポートセンター A棟
連絡先	T E L 0225-23-9561 F A X 0225-23-9562 (FAX) M A I L ishinomaki.rc@gmail.com
代表者名	武藤真祐（医療法人社団 鉄祐会 祐ホームクリニック理事長）
活動内容	①石巻医療圏での在宅被災世帯への健康・生活情報に関する 訪問アセスメント活動 ②専門職および専門職団体（自治体・NPO・医療／福祉団 体・民間企業など）との連携による在宅被災世帯への 健康サポート・生活サポート活動 ③上記の活動に基づく情報発信、政策提言活動
スタッフ数	45名（平成24年6月現在）
運営団体	一般社団法人 高齢先進国モデル構想会議

本件に関するお問い合わせ先

石巻医療圏 健康・生活復興協議会

広報担当 塩澤

TEL : 0225-23-9561 FAX : 0225-23-9562

MAIL : ishinomaki.rc@gmail.com

状況報告会資料の情報について

当資料に掲載されている、活動内容、統計情報、お問い合わせ先、その他の情報は、発表日現在の情報です。その後予告なしに変更となる場合があります。また、本資料における計画、目標などは様々な想定外のリスク、および不確実な事実により、実際の結果が予測と異なる場合もあります。あらかじめご了承ください。
